

金沢市立諸江町小学校  
平成30年度 学力向上の取組（3学期）

1 研究主題

自らを活かして生きる ～主体的に問題解決する力の育成～

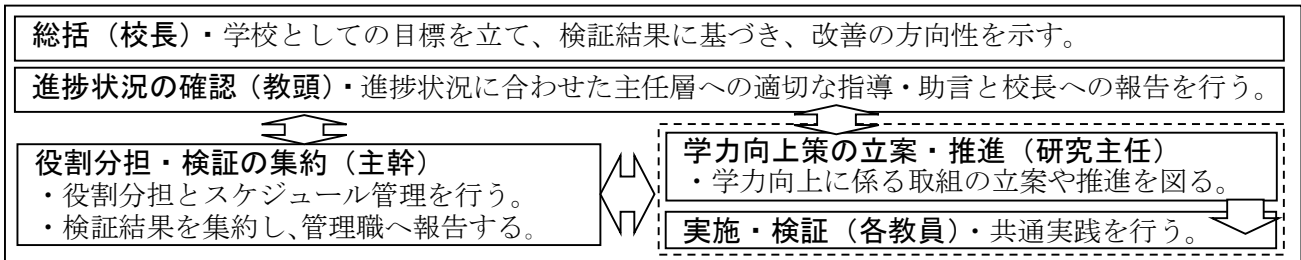
2 現状・課題（**評価問題の結果**、平成30年度学力分析シート等から）

<b>(1) 児童生徒の現状・課題</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語・算数ともに市平均正答率を下回っている。経年変化を見ると、年度によって差の広がりがあるが、算数の平均正答率は、過去3年間で差が一番大きい。</li> <li>・平成29年度（4年時）の石川研基礎学力調査と比較すると、平成29年度、平成30年度ともに、市の平均正答率を下回っている。その差は、国語は同程度であるが、算数の差が大きく広がっている。</li> <li>・国語の大設問④の平均正答率が、35.1%で市平均正答率よりも大きく下回っている。複数の資料の中から題意に沿う資料を選んだり、資料から必要な情報を読み取ったりすることに、昨年度同様課題が見られる。</li> <li>・算数においては、市平均正答率を10ポイント以上下回っている設問が4つあった。その中でも計算の順序やきまりの理解、概数で表された数値の意味判断について大きく課題が見られる。</li> <li>・後期の児童アンケート「自分から興味・関心を持って学習ができる」の項目において、肯定的に回答した割合は89.1%で前期より0.8ポイント上回った。そして「当てはまる」と回答した割合は51.5%で研究主題に関連する主体性については十分とは言えない。</li> </ul>	
<b>(2) 指導の現状・課題</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習プレートを位置づけて授業を組み立てる取り組みを行ったことで、「つかむ」場面や「まとめる」場面は教師の意識も向上し、児童もできた実感を持っている。「聴き合う」については、一斉で聴き合う場が多く、児童一人一人の考えを広めたり深めたりすることに至っていない。</li> <li>・言語力を高めるために「主語・述語・修飾語」の言語プリントを月に一度、全校で取り組んだ。</li> </ul>	

3 重点的に行う取組と検証 ※2学期と変更した箇所は「MSゴシック体」にする

		授業で行う取組		授業以外で行う取組	
		取組①	取組②	取組①	取組②
重点的に行う取組		「自分で考えます」では、根拠を明確にできるよう、条件を提示して、自分の考えを書かせる。	「自分の考えを伝えます」では、目的を明確にしたペアやグループ活動を行う。	マイタイム（朝自習）で国語の言語力を高める学習プリントに取り組ませる。	家庭学習の時間を学年ごとに設定し、手本となる自学ノートの掲示や、保護者からのサインで、内容の充実を図る。
検証の方法と指標	指導の状況	方法 教師アンケートで確認する 指標 教師アンケートの肯定的評価85%以上	方法 学年会で確認する 指標 週5時間以上	方法 学習単元と関連させてプリントの状況を確認する。 指標 週1枚	方法 「家庭学習ポイントカード」の点検をする。 指標 点検を週に1回
	児童生徒の状況	方法 児童のノートで確認する 指標 全学級の達成割合が80%以上	方法 児童アンケートで確認する。 指標 肯定的評価の割合が85%	方法 単元末テストの「言語」で確認する。 指標 平均点80点以上	方法 児童アンケートで確認する。 指標 目標時間達成人数の割合が70%

#### 4 年間計画



月	PDCA	授業で行う取組	研究授業	授業以外で行う取組
1月	計画	<p><b>研究主任</b>が学力向上策を立案する。</p> <p><b>研究主任</b>が職員会議で学力向上策を提案し、<b>全教員</b>が具体的な取組や検証の方法、指標について共通理解する。</p> <p><b>全職員</b>が自分の考えが書けるようにしたり、ペアやグループ活動の充実を図ったりして指導する。</p>		<p><b>研究主任</b>が学力向上策を立案する。</p> <p><b>全職員</b>が国語の基礎基本の力を高める学習プリントを朝学習に取り組みさせる。また、保護者の協力を得て、家庭学習の充実を図る。</p> <p><b>学年主任</b>が学年会で指導の状況、及び児童の状況について確認する。</p>
	実践	<p><b>学年主任</b>が学年会で指導の状況を確認する</p> <p><b>学年会</b>で取り組んだペア・グループ活動について協議する。</p> <p><b>教務主任</b>が、各学年での取り組み状況を把握する。</p>		<p><b>学年主任</b>が学年会で指導の状況、及び児童の状況について確認し、改善を図る。</p>
2月	改善	<p><b>各学年の学習委員会</b>が指導の状況を集約し、学年間差、教員間差を確認する。</p> <p>学年末テストを「学力向上の取組（3学期）の検証の機会とする。</p>		<p><b>学年主任</b>が指導の状況、及び児童の状況について確認し、<b>学習委員会</b>と<b>主幹教諭</b>が達成状況をまとめる。</p>
3月	検証	<p><b>研究主任</b>が指導の状況及び児童の状況についての達成状況をまとめる。</p> <p><b>校長・教頭・主幹・研究主任</b>が1年間の成果と課題を整理する。</p> <p><b>校長・教頭・主幹・研究主任</b>が次年度の方向性を示す。</p>		<p><b>校長・教頭・主幹・研究主任</b>が1年間の成果と課題を整理する。</p> <p><b>学年会</b>で学年末、学年始めの宿題について協議・検討する。</p> <p><b>研究主任</b>が各学年の宿題を把握する。</p>
平成31年4月以降の下記の内容について、加除修正する必要はない。				
4月～		「全国学力・学習状況調査」「県基礎学力調査」「中学校1年生学習到達度確認問題」を「学力向上の取組（3学期）」の検証の機会とする。		